

中小企業の業況は、緩やかな改善傾向にある。

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど平成25年10～12月期の実績と平成26年1～3月期見通しについての調査結果（回答数88社、回答率88%）をまとめた。本調査は3ヶ月毎に年4回行う。

前年同月比の今期（平成25年10～12月）の全産業の業況判断D I値は、前期▲11%→▲18%とマイナス幅が拡大し、前2期の持ち直し傾向に歯止めがかかった。

全業種のD I値に見る業況判断動向を前期と比較すると、製造業は0%→0%と横ばいで推移したが、建設業：15%→▲7%、小売業：▲20%→▲33%、サービス業：▲10%→▲14%は悪化傾向となった。

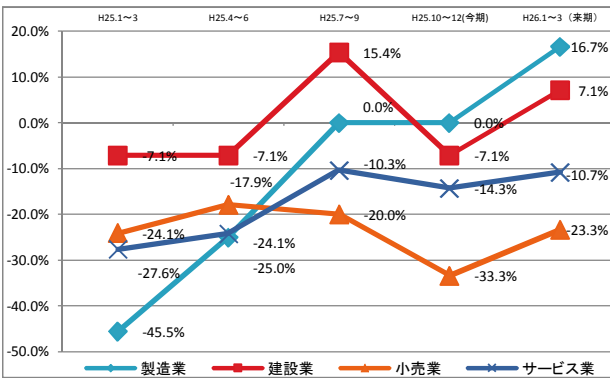
前回の調査時点では、新規設備投資を実施した企業は全体の17%であったが、今期は20%が行った。

経営上の問題点については、全業種において全体の2割程度の企業が、依然として需要の停滞を問題点として挙げている。また、製造業・建設業で原材料上昇が上位に来ており、消費税増税後まで続く可能性があり、注意が必要である。

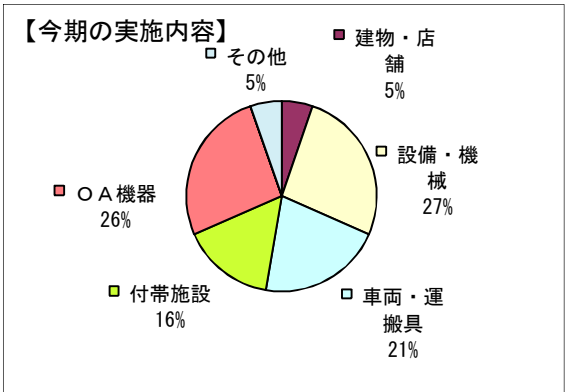
◆業況D I 値（今期の状況）

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	-18%	↘	-19%	↘	-8%	↗	27%	→	-20%	→	0%	↗
製造業	0%	→	15%	↗	-17%	↘	31%	↘	0%	↗	-8%	↗
建設業	-7%	↘	0%	↘	-7%	↗	50%	↗	-7%	↗	0%	↗
小売業	-33%	↘	-33%	↘	-13%	↗	17%	↘	-33%	→	7%	↗
サービス業	-14%	↘	-25%	↘	4%	→	19%	↘	-18%	↘	0%	→

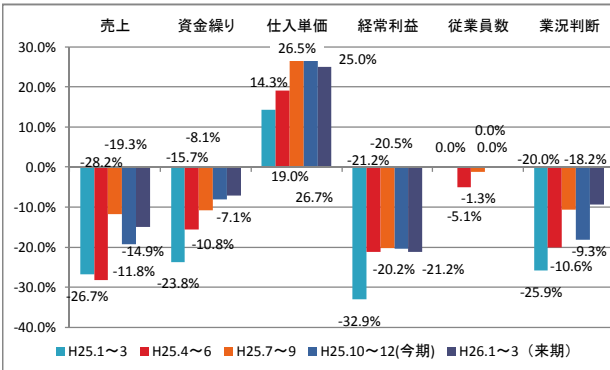
◆産業別業況判断D I（前3期からの推移と来期見通し）



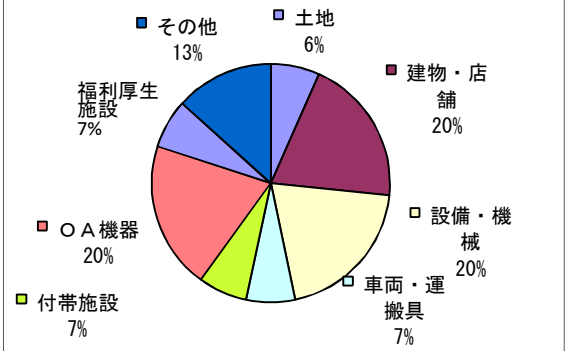
◆新規設備投資（今期実施・来期計画）



◆全産業D I 項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



【来期の実施計画】



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	需要の停滞 19.4%	材料価格の上昇・民間需要の停滞 15.6%	需要の停滞 21.9%	利用者ニーズの変化への対応 21.9%
2位	原材料価格の上昇 13.9%	請負単価の低下・上昇難 12.5%	購買力の他地域への流出 19.2%	新規参入業者の増加・需要の停滞 14.1%
3位	製品ニーズの変化への対応 11.1%	官公需要の停滞 9.4%	消費者ニーズの変化への対応 12.3%	店舗施設の狭隘・老朽化 10.9%

※D Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。